

倉庫業青年経営者協議会(倉青協、曾根和光会長)は9日、福島県郡山市で第135回全体会(郡山大会)を開催し、64人が参加した。国土交通省の坂巻健太大臣官房参事官が最近の物流政策について講演。東馬(本社・東京都港区)の尾越竜馬CEO代表取締役会長が、自身

国交省の坂巻大臣官房参事官が講演

が若い頃に経験したユニークなエピソードと教訓について話した。なお、10日には被災地視察会が行われた。

曾根会長は「前回の郡山で全体会を開催したのは2003年9月。当時私は運営委員長を務めており思い出深い。会長の任期も(来年の6



郡山大会に64人が参加



曾根会長

月まで)残りあと少しとなった。昨年6月に掲げたスローガンは「NO倉庫NO LIFE!」強い絆で明るい未来を拓こう」で、サブタイトルの意図するところとして、東日本大震災が頭にあつた。明日は被災地を見学するが、いろいろな思いを自分の会社を持ち帰っていただきたい」と挨拶した。

倉青協OBで福島県倉庫協会の会長を務める大善(本社・福島県喜多方市)の矢部喜兵衛社長は来賓の挨拶で、「東日本大震災後、福島倉庫は大変低迷したが、倉青協のメンバーを中心にどんどん復興している。倉青協の皆さんのご支援に感謝するとともに、日本の物流を背負って立つ人たちがこの中からたくさん出てくることを期待する」と強調。マルコ物流(本社・福島県二本松市)の遠藤吉次社長も倉青協の活動を振り返り「若いうちにこうした会に入って

経験を積み重ねることが大事」と語った。

国交省の坂巻参事官は、物流部門の2015年度概算要求・税制改正要望の概要について説明。具体的には、①地域物流の新たな仕組みの構築(過疎地や農産物輸送にかかる新たな物流ニーズに対応するための取り組み強化)②労働力不足対策(物流分野への女性・高齢者・若者等の就業、物流システム効率化の取り組み促進)③国際物流のシームレス化(グローバル・サブライチェーンの深化に対応した国際物流の円滑化)④物流のグリーン化(輸送システムおよび物流施設等の温室効果ガスの排出抑制対策の推進)⑤災害に強い物流システムの構築(広域的な支援助物資輸送体制の確保に向けた物流拠点の強化)——を挙げ、物流効率化施設にかかる特例措置の延長についても前向きな姿勢を示した。

東馬の尾越氏は若い頃の2つのエピソードを紹介。学生時代に焼き鳥屋でアルバイトした時に生焼けの状態で焼き鳥を出してしまい、「お客さんから帰りがけに『おいしかったよ』と一言言われた。後で生焼けだったと分かり、言葉でしかられるよりも余計にこたえた」と。無言の効果。について話した。また、有名プロゴルファーのキャディーを務めた時、「プロゴルフから洗車を頼まれ、スタンドに行つたものの珍しい車のため洗車機では洗えない。車を見に集まってきた人たちに『洗ってくれたら車を触らせてあげる』と言ったところ、10人くらいで洗ってくれた」とし、ひとつの目的が合致すると連帯感が生まれるおもしろさを紹介した。